

<研究名称>

腸瘻を介した LCIG 療法患者へのケアの 1 例

<研究申請者>

看護部 安光 正敏

<研究期間>

平成 30 年 2 月～3 月

<研究の目的・意義>

ここ 10 年間でパーキンソン病治療薬の開発が進んでおり、多くの薬が承認されてきている。2016 年エルドパ・カルビドパ合剤ジェル腸内持続投与療法（以下 LCIG 療法）もその一つで、一般的には胃瘻を造設し、空腸にチューブを挿入し、そのチューブに専用ポンプをつなぎ、一定速度で持続的に投与するものである。しかし、今回の対象は胃全摘後で、日本で初めて腸瘻を使用した LCIG 療法を行うこととなった。腸瘻を使用することによる問題点を明らかにし今後のケアに活かす。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

パーキンソン患者で腸瘻を介して LCIG 療法を行っている患者 1 名を対象に、平成 30 年 2 月下旬から 3 月上旬の間で目的に沿って質的に研究を進める。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

看護師長 吉岡 瑞子

脳神経内科部長 浦 茂久

看護係長 米山 香世

看護師 宮之内 秀則、斎藤 舞、安藤 有紀、古川 睦子

<倫理上問題になると考えられる事項、その他特記事項>

個人情報特定されないこと。研究への参加は自由意志であり、治療に影響しないこと。知り得たデータは本研究でしか使用しないこと。

<IC のための説明・同意に関すること>

今回行われたケアや管理方法の指導について、その様子を撮影した写真のデータを公開する可能性があるが、知り得た情報やデータ及び顔、名前など個人が特定されないよう配慮し、発表終了後は速やかに処理・破棄することを約束する。また途中で協力を中断したとしても不利益が生じることが一切なく、治療を継続できることを伝えた。また、以上の内容を含む独自の同意書を作成し、研究への参加に同意を得た。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 看護部 安光 正敏

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648